S H I R A K A W A

町議会とあなたを結ぶ広報紙

しらかわ

議会だより

No.210
2024年2月1日

第4回定例会
補正予算・条例制定など、14議案を可決

白川町議会ホームページ

第４回定例会

補正予算・条例制定など14の議案を可決

白川町議会第４回定例会を、昨年12月14日と15日の２日間にわたって開催しました。

今定例会では、３人の議員が一般質問を行い、町政の課題等について質問したほか、令和５年度補正予算や条例の制定など町長提出の14議案を審議し、いずれも議員全員の賛成により原案のとおり可決しました。その主な内容をお知らせします。

条例の制定

▼白川町職員の公正な職務の執行の確保に関する条例の制定

職員の法令等の遵守に関する基本的事項を定めることにより、町政運営の透明化と法治行政の確立を推進するとともに、職員の公正な職務の執行の確保を図り、町民全体の公益の保護と、町民の町政に対する信頼を確保するため、本条例を制定する。

▼白川町簡易水道事業の設置等に関する条例の制定及び、白川町簡易水道事業の剰余金の処分等に関する条例の制定

令和６年４月１日から簡易水道事業の地方公営企業会計移行に伴い、本条例を制定する。

条例の廃止

▼白川町簡易水道特別会計条例の廃止

令和６年４月１日から簡易水道事業の地方公営企業会計移行に伴い、本条例を廃止する。

条例の一部改正

▼白川町常勤の特別職職員の給与に関する条例及び白川町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、特別職の職員及び議会議員の期末手当について所要の改正をする。

▼白川町職員の給与に関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、一般職の職員の給与について所要の改正をする。

▼白川町職員の旅費に関する条例の一部を改正

燃料価格の高騰をうけ、職員の旅費に係る車賃について、国家公務員等の旅費に関する法律の規定に準じた額とするため、所要の改正をする。

▼白川町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、会計年度任用職員の給与について、所要の改正をする。

▼白川町国民健康保険税条例の一部を改正

全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部改正に伴い、所要の改正をする。

▼白川町斎場の設置及び管理に関する条例の一部を改正

消費税のインボイス制度の導入に伴い、所要の改正をする。

令和五年度 補正予算

今回の補正予算では、一般会計で1億593万円を追加して、補正後の総額を68億3478万円に、国民健康保険特別会計で343万円を追加して、補正後の総額を9億9557万円に、簡易水道特別会計で650万円を追加して、補正後の総額を5億3320万円に、地域振興券交付事業特別会計で3341万円を追加して、補正後の総額を1億5446万円に、介護保険特別会計で110万円を追加して、補正後の総額を12億7095万円としました。

その主な内容は次のとおりです。

■追加された主なもの（一般会計）

・水源林公有化支援事業補助金過年度分返還金　190万円
・地域おこし協力隊住宅賃借料　47万円
・住宅取得等支援事業補助金　160万円
・子育てあんしん住宅リフォーム支援事業　120万円
・老朽空家等除去事業補助金　80万円
・エネルギー・食料品価格等の物価高騰に伴う低所得世帯支援給付金　6552万円
・光の子保育園委託費　566万円
・リサイクルステーション設置工事請負費　400万円
・農業農村整備工事費　300万円
・中山間地域農業生産基盤整備促進事業補助金　382万円
・道路景観整備事業補助金　40万円
・美濃白川産ヒノキ柱材贈呈事業補助金　420万円
・道の駅施設整備事業補助金　215万円
・道路維持修繕事業　150万円
・消火栓器具更新事業補助金　83万円
・小学校維持管理事業　160万円
・東座特別公演開催事業交付金　100万円
・美濃白川楽集館管理運営事業　74万円
・町民会館維持管理事業　106万円
・農地農業用施設災害復旧事業　67万円
・林業用施設災害復旧事業　161万円

（国民健康保険特別会計）

・出産する被保険者の保険料免除措置に伴うシステム改修委託料　154万円
・一般被保険者高額療養費　140万円

（簡易水道特別会計）

・維持管理事業修繕料　650万円

（地域振興券交付事業特別会計）

・地域振興券換金代　3300万円

（介護保険特別会計）

・介護保険システム改修委託料　110万円

■減額された主なもの（一般会計）

・スマートテレビシステム構築実施設計委託料　400万円
・森林整備地域活動支援交付金　360万円

■主な質疑（抜粋）

問　スマートテレビシステム構築実施設計委託料の減額について、今後の計画はどのようか。

答　美濃白川DX（デジタルトランスフォーメーション）戦略の5年計画を策定し、順次進めている中で、テレビで操作するシステムよりも、スマートフォンなどデジタルデバイスを使うことで比較的簡単に構築できることが、県のDX推進課や名古屋市立大学とのやり取りで見えてきた。今後は、デジタルデバイスを有効に活用した計画としたい。

問　道の駅　美濃白川ピアチェーレについて、施設全体の老朽化が危惧されるが、今後の見通しはどうか。

答　ピアチェーレは30周年を迎え、施設や備品が老朽化している状況であり、運営の改善を含め抜本的な改革が必要であると考える。町の重要な施設であるとの認識のもと、方向性を出すよう取り組みたい。

問　地域おこし協力隊の募集について、配属先はどこを予定しているのか。

答　12月時点で応募はないが、移住交流サポートセンターの配属を予定している。担当としては、空き家関係補助金のワンストップ化に関することや、SNSを使った情報発信を予定している。

まちの課題を問う

一般質問 3人の議員が登壇

一般質問の様子が、You-Tube（動画配信サイト）でご覧いただけます。

問 地域包括ケアシステムについて

梅田（うめだ）みつよ 議員

地域包括ケアシステムとは、2025年を目途に、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるサービスの構築を目指したものである。2040年には高齢者の2人に1人が認知症になると言われ、その対応を迫られている。

問 本町の地域包括ケアシステムはどのような状態か。

答 三宅保健福祉課長
本町は、地域ケア地区会議、地区連携会議、介護支援専門員連携会議、多職種連携会議、地域包括ケア推進会議を開催し、課題の解決にあたっている。関係事業として社会福祉協議会の生活支援コーディネーターもある。これらの取り組みから町の施策の事業化や関連分野のネットワークの体制を構築している。

問 本来30分以内に必要なサービスが提供されることが目標である。本町の状況と対策はどのようか。

答 三宅保健福祉課長
本町は面積が広いことや医療機関も限られるため、30分以内は厳しい状況にある。地区連携会議・民生委員・社会福祉協議会・地区福祉会と連携した対応や地域協議体の活動の充実や発展が大切だと考えている。生活支援コーディネーターの活動等を中心に、行政、社会福祉協議会による地域への働きかけの充実を図っていきたい。

問 高齢期における認知症予防、QOLの保持、アイデンティティが失われないために、本町が独自で行う施策はどのようか。

※QOLとは…クオリティオブライフの略称で「生活の質」や「満足度」の意味

答 三宅保健福祉課長
認知症については、サポート医を含め認知症初期集中支援チームを委託している。QOLの保持は、医療面は医師にお願いし、町としては各種サービスや事業を行い、各個人の関心の高い事を続け、生きがい、役割を持てる心豊かな生活支援を心がけたい。また、ボランティアなどによる孤立防止にも取り組んでいる。

問 これからは町民自身が健康に関心を持ち取り組む姿勢も必要である。健康予防やボランティアに対しポイント発行を行ってはどうか。

答 三宅保健福祉課長
これまでは行っていなかったが、今後検討を行っていきたい。

問 地域の福祉の担い手不足は深刻な状況で、テクノロジーの活用が必須になってくる。町内の介護事業所のICT活用状況はどのようか。

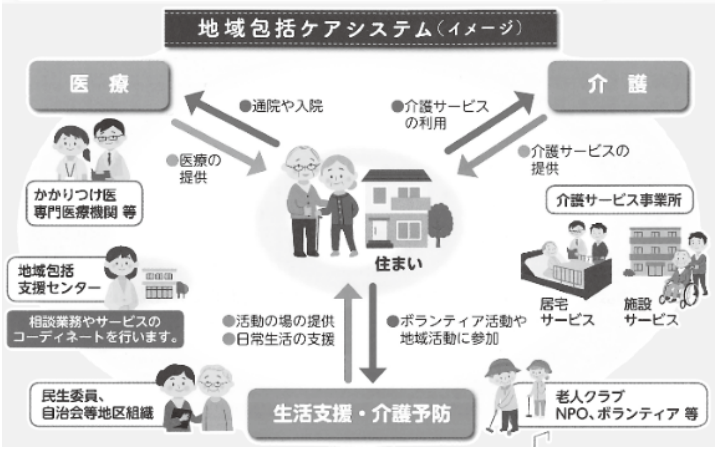
答 三宅保健福祉課長
各事業所でオンライン会議は進みつつある。介護ソフトについては、導入を検討している事業所もある。介護ロボットは、入所施設で県補助金を活用して導入し、

入居者、職員の安心につながっている。

問　町としても取り組みをしっかりとサポートしていく必要があるがその点はどうか。

三宅保健福祉課長

答　人材確保と合わせて、介護職員の負担軽減を図ることは必要と考える。国・県補助金などの財源の検討を進めていただく中で、必要な支援を検討していく。



問　子育て環境に資する提案について

さえき　よしのり
佐伯好典 議員

少子高齢化社会において、子育て環境の向上に向けての取り組みは重要であり、本町でも様々な施策が講じられている。これまでもその拡充について一般質問で取り上げてきたが、佐伯町政において高校生へのJRの定期購入への補助が3万円から4万円に増額されるなど、子育て世帯への負担軽減に努力され感謝する。

一方で、今年度の町内出産数が10人の見込みであり、危機感を感じると共に、より一層の子育て環境の向上に資する施策の拡充について質問をする。

問　通学補助としての自転車購入への補助金について

大岩教育課長

答　現在、おおむね6キロメートル以上となる自転車通学者には、遠距離通学費補助金、月額1，800円（11カ月分×3年）を交付している。しかし、本町の地形は高低差が激しく、道路状況も良いと言えないので、自転車通学者に限らず、通学には様々な支障があると言える。このため議員提案の自転車通学への補助のあり方だけでなく、スクールバスの配置や路線変更、遠距離通学基準の見直しなどを行い、より良い通学になるよう新しい支援の在り方を検討し、早期の実現を目指す。

問　高校生通学支援について、おでかけしらかわの利用者、寮や下宿への拡充の考えはないか。

大岩教育課長

答　令和4年度に議会から「高校生の通学支援の拡大を始め、子育て世代の流出を防ぐ対策や予算の増額を図られたい」との要望があり、交付額を3万円から4万円に増額した。当分はこのままの支援を継続したいと考えているため、おでかけしらかわの利用者、下宿や寮に対する費用支援をする考えはない。

問　子育て安心リフォーム補助金の見直しについて

渡口企画課長

答　議員ご提案の、「この制度の対象を18歳以下の子どもがいる家庭への拡充」だが、白川町の社会動態を統計データでみると、10代後半の層では、職業や学業上の理由による転出が非常に多く、高校卒業などを機に、町外へ転出してしまった場合には、事業効果が薄くなり、この事業の目的に沿った形となるのか不安がある。そのため、定住を促進することを目的とした形に整理しつつ、子育て世帯の範囲見直しや支援方法をどうしていくかの検討を行い、財源の確保にも努めながら、制度設計を行っていく。

問　ボランティア活動に対する認定や表彰等について

大岩教育課長

答　ボランティア活動は、個人の

自由意思に基づいて、その技能や時間等を進んで提供し、社会に貢献するという定義があり、その活動に対して認定することは可能であると思っている。

現状は、白川町青少年育成町民会議表彰規程の中に、「社会参加活動を積極的かつ継続的に行っている青少年」に対して、表彰状等を授与することとしており、今後も、この表彰規程を各種団体に周知し、ボランティア活動を考慮した上で、表彰したいと考えている。

問 蘇原保育園の閉園について

令和7年3月で閉園の方針が出ている蘇原保育園だが話し合いの中で、保護者、切井自治協議会から4つの要望が出された。1つは閉園を令和7年まで延長する要望であり、それについては叶えられたので、ここでは扱わないが、その他の3つに関しては具体的な動きや回答がなく、不安視する声が聞かれる。

保育園閉園は保護者、地域にとって重要な問題であり、その後に向けたケアや報告は必須であると思い、当時、要望された3つの事項への回答と現状においての質問をする。

問 通園に対しての補助について

大岩教育課長

答 町内に住所を有し、町内の公立又は私立保育園を利用する遠距離通園の家庭に対して、自家用車の燃料費の一部を補助することを考えている。令和7年度から町内全域を対象に開始できるよう、令和6年度に制度設計を行うこととしている。

問 他園との交流について

大岩教育課長

答 他園との交流の実績だが、今年度は、6月、8月、11月に年長児が集まって同年齢での集団遊びを行い、来年2月にも行う予定である。

蘇原保育園と光の子保育園の交流については、年長児だけでなく、年中児・年少児も含め、来年度に実施できるよう計画している。また、光の子保育園の行事に合わせて、蘇原保育園の親子で参加できる場を計画したい。

問 閉園に向けての進捗の状況の報告について

大岩教育課長

答 今後の保護者、自治会への報告会については、保護者会の意向をもとに進めていけるよう、保護者、協議会、保育園、教育委員会が連携していきたいと考えている。

問 保育園の配置について

鈴村教育長

答 保育園は、働く保護者が子供を預けやすい保育園を選ぶことができる。町内の保育園はもとより、勤務先などの理由で町外の保育園を選ぶこともできる。どの地区も子どもの数が減少しているが保育園の配置に関しては、町内5保育園を維持する。

問 自主財源の確保に向けた取組みについて

三戸勝徳（さんと かつのり） 議員

町民のニーズに的確に対応し、行政サービスを低下させることなく、効率的な財政運営を進めていくためには、経費の削減による歳出の抑制、税収の安定的確保や収納率の向上、不良債権の回収徹底などが求められる中、一方で自主財源を作り出す努力も必要であり、その取組みについて質問する。

問 本町における個人向けふるさと納税の現状はどのようか。

渡口企画課長

答 平成26年度から返礼品の取り扱いを始め、現在では参加事業者44社、ラインナップ238点となり、令和4年度の実績は924件で、約3380万円の寄付金を頂戴している。

しかし本町の寄付額は県下でもかなり低いため、より一層魅力的な返礼品の開発に向け取組んでいるところである。

問 人材派遣型の企業版ふるさと納税の概要はどのようか。

渡口企画課長

答 専門的知識やノウハウを有す

る企業の人材を地方公共団体等へ派遣することにより、地方創生のより一層の充実・強化を図ることを目的に創設された制度で、企業が派遣する社員の人件費を含む寄付を行なうことで、受け入れた地方公共団体等は、人件費を負担することなく地方創生の取組みを強化するとともに関係人口の創出・拡大が期待できる。派遣した企業は寄付額の最大９割に相当する法人税の軽減を受けることができ、金銭的な支援のみならず、地域貢献とともに人材育成の機会として活用できるメリットがある。

問　企業版ふるさと納税の今後の取組方針はどのようか。

渡口企画課長

答　地域課題解決のために、人材派遣型に限らず企業版ふるさと納税全般を積極的に活用していく方針を持っている。そのためには、地方創生計画を作成し、国の認可を受けなければならず、現在申請している段階である。認可を受けた場合には、必要とする部分を見極めながら、パートナーとなる企業の募集を行なっていく。

問　広告収入事業について、町の公共物や印刷物等への広告掲載を積極的に行なうことが必要と考えるが、ほとんど見かけないのが現状である。広告収入事業に対する認識と現状はどのようか。

渡口企画課長

答　過去には自主財源確保という施策のひとつとして企業広告掲載を推進していたが、平成27年度からの行財政実施計画の見直しにより、ふるさと納税の推進に方向転換され現在に至っている。現状でも町の資産に対して有料広告の実施は可能となっており、封筒への有料掲載、広報誌におけるＣＣＮｅｔ有料広告がある。

問　広告収入事業に対しての検討すべき課題と今後に向けての考えはどのようか。

渡口企画課長

答　この仕組みが十分知られておらず、ニーズも把握できていないのが問題であると認識している。制度周知をしつつ、併せてニーズの把握に努め、効果のある施策かどうかを判断することが課題と考える。今後に向けては、町と企業双方にメリットが出る形を作りつつ、併せて広告宣伝できる媒体についても、幅を広げていけるよう、検討を始めていく考えである。

問　民間企業が町の施設の命名権者となることで、民間資金を利用し維持管理費等の財源が確保できる命名権の売却について、過去検討したことはあったか。また今後募集する考えはあるか。

渡口企画課長

答　現時点において、募集も含め事例はない。町、利用者、命名する企業の三者にメリットが必要なため容易でなく、優先的な取組みと位置づけしていないのが実情である。非常に難しいが、町の資産全般において、この制度が活用できるものを洗い出すことから始め、他市町村の事例も参考にしながら、検討していければと考えている。

問　自主財源確保に向けた取組み全般について、町長の総合的な考えを伺う。

佐伯町長

答　自主財源の最も大きな柱は町税だが、近年の様々な状況の中で増加することは困難と思われる。町税以外で自主財源を作り出すには、町有財産の活用が考えられ、今後も売却、貸付けについて考慮していきたい。また、広告収入や命名権の売却については、町の資産全般を対象としているので、今後も周知して活用を図りたいと考えており、ふるさと納税については、更なる工夫をして推進する必要があると考えている。広告もふるさと納税もそうだが、内容はもちろん、本町に興味や関心を持たれることが重要で、関東、関西域まで周知されるようなことができないか、今後の宿題とさせていただきたい。

◇◇◇ 議会を傍聴しませんか ◇◇◇

次回の定例会は、下記のとおりです。

2月28日（水）、3月４日（月）
3月11日（月）、3月18日（月）

○入場できる定員は15名です。
○日程は都合により変更となる場合があります。
○審議内容や開催時間はお問い合わせください。

議会事務局　☎ 72-1311（内線 291）

まちづくりに提案！

自分達が考えた白川町の未来を提案したり質問を行うことで、白川町のまちづくりについて深く考えることを目的に行われている子ども議会。今年は、白川・蘇原・黒川小学校の6年生児童、佐見小学校の5・6年生児童、計５５人が参加し、子ども達から見た白川町の課題と、それに対する提案・質問が提出され、答弁が行われました。

子ども達が考える「私たちの白川町をこんなまちにしたい」を紹介します。

提案！ 私たちの白川町をこんな町にしたい！

- 自然豊かな白川町で山のキャンプを楽しもう！山のぼりをして、きれいな景色からジップラインを
- 町内に子どもからお年寄りまで楽しめる娯楽施設を！飛騨川沿いにまんが喫茶を建設
- 若い人が集客する場、白川町。お茶やアユなどを利用した白川町のよさを伝えるイベントの開催
- 「映え」で集客！！ SNS映えをする場所の建設、設置、インスタグラム活用
- 誰にでも住みよい町、白川町。子どもとお年寄りのふれあいの場をつくる
- 旧佐見小校舎の有効活用を！佐見博物館や宿泊施設、キャンプ施設、総合病院など
- 白川町の児童全員が、沖縄県宮古島市の児童たちと一緒に授業ができる学校づくり
- 飲食店で白川町の特産品を使った料理を開発、販売

役場執行部へ質問！

★こんな質問がありました

問　飛騨川が綺麗に見え、マンガ喫茶が建設できる場所や費用はありますか？

答　飛騨川沿いには、自然が感じられる魅力あるスポットがたくさんあり、その全てが候補地になるのではないでしょうか。しかし、実現するのには、施設を造ったり維持するため多くの費用が必要になり、とても厳しいのが現実です。

問　ヒノキの伐採量は年間にどれくらいですか？

答　東濃ヒノキ白川市場に出される町内産ヒノキの量は年間で約９千㎥です。これは、白川小学校体育館の大きさと同じくらいの量になります。東京２０２０オリンピックの選手村に白川町産のヒノキが使用されました。役場の新庁舎や新しい学校にも地元産の木材を使用する予定です。

問　宮古島市との交流事業は今後も続ける予定はありますか？

答　この交流を通して、互いに異なる自然環境や風土を肌で感じる有意義な交流事業だと思いますので、継続していきたいと考えています。

実際の議場を使い、議長・議員役を務めた子ども達。議場ならではの空気感に緊張の様子でした。

参加した子ども達からは、「すごく緊張したけれど、とても貴重な体験ができました」「これからも白川町のために、いろいろなアイデアを考えて行きたいです」といった挨拶があり、白川町のまちづくりについて学ぶ良い機会になったようです。

議場で町への提案が行われているのと並行して、隣の会議室では議会議員に対する質問が行われました。

議員の仕事内容や役割、議会の仕組みについて、事前に考えた質問をハキハキと発表し、子ども達のまちづくりに対する関心の高さに驚かされました。白川町の将来を担う子ども達が、議員とのやり取りを通して、更にまちづくりに興味を持ってもらえることを期待しています。

議会議員とのやり取りの一部をご紹介します。

議会議員さんへ質問！

★こんな質問がありました

問 議会で今一番問題視されていることは何ですか？

答 議会の中で問題視していることは、議会を良くするための制度の見直し（議会改革）や人口減少、教育環境、子育て支援、地域活性化について、たくさんの話し合いを行っています。特に人口減少は日本中の大きな課題として問題視されています。

問 議員さんは全部で何人いますか？

答 今の議員は全員で9名です。男性8名、女性1名となっています。

白川町が誕生した昭和32年当時の議員は26名、その時の人口は約1万8千人でした。その後、昭和38年議員18名、人口約1万7千人、昭和62年議員16名、人口約1万3千人、平成11年議員15名、人口約1万2千人、平成17年に現在の9名になった経緯があります。

問 ぼくたちがした提案は、今の白川町に向いていると思いますか？

答 皆さんの提案を聞いていて、白川町を良くしたい、活気のある町にしたいと一生懸命考えてくれたことが伝わってきました。とても良い提案だと思います。将来、役場職員や議員、あるいは町長になって、皆さんが考えた提案やまちづくりを実現しようと考える人がいてくれたら、とても嬉しく思います。

議員が研修会・交流会に参加、視察を実施

岐阜県選出国会議員に要望

10月25日、町議会議員と佐伯町長で、金子俊平衆議院議員、渡辺猛之、大野泰正両参議院議員を訪ね、地方の発展や本町事業の推進について要望を行いました。各議員には、要望事項に熱心に耳を傾けていただくとともに、今後の地方創生などについて意見交換しました。

全国過疎問題シンポジウム2023 in とやまに参加

芝園小中学校の視察後、富山県民会館にて全国過疎問題シンポジウムに参加しました。

当日は、過疎地域優良事例表彰式のほか、早稲田大学名誉教授　宮口氏の基調講演「過疎地域の使命」を受講し、過疎地域が直面する課題や将来の可能性について学びました。

富山市立芝園小中学校を視察

10月26日、町議会議員が、富山市で「小中一貫的連携教育」を行っている「芝園小中学校」を視察しました。この学校は、小中学校が同じ敷地内にあるという利点を有効に活用し、教員の数はそのままに「小中一貫校」の良さも取り入れた特色ある教育が行われていました。当日は、校舎内を視察したあと、先生方と活発な意見交換が行われ、教育方針や小中一貫校との違いについて、理解を深めました。

加茂東部三町村で議員交流会を開催

12月18日、白川町と七宗町、東白川村の加茂東部三町村の議会議員交流会が行われました。この交流会は、毎年持ち回りで開催しており、今回は東白川村で「ペタンク競技」が行われました。

議員一同、熱戦を繰り広げました。

八百津町マナの菜園を視察

11月27日、町議会議員と役場農林課職員で八百津町のマナの菜園を視察しました。この施設は、魚と野菜を一緒に育てる「アクアポニックス」という新しい農法で、水槽で飼う魚の糞を特殊な装置を経由させて、水耕栽培の野菜を育てるというものです。町内の廃校舎などを活用して起業に結びつけることはできないか、意見交換が行われました。

議会の動き（10月20日～１月17日）

10月

20日　岐阜県戦没者追悼式
22日　白川町芸能発表会
　　町民体育大会
25日　上京要望
26日　富山市立芝園小中学校行政視察
26日～27日
　　全国過疎問題シンポジウム（富山県）

11月

3日　白川町表彰式
6日　白川・東白川地域公共交通活性化協議会
7日　議会議員協議会
　　地方自治連絡協議会
8日　福島県古殿町議会行政視察来町
10日　白川町総合計画審議会
17日　可茂地域市町村議会議員研修会
19日　在住外国人との交流会
　　美濃白川楽集館20周年記念式典
21日　可茂町村議会議長会及び正副議長懇談会
21日～22日
　　全国水源の里シンポジウム（島根県）
23日　郵便局長会加茂部会グラウンドゴルフ大会
　　大山白山神社秋季大祭
27日　八百津町マナの菜園視察
　　下呂白川線改良促進期成同盟会要望活動
28日　議会運営委員会
29日～30日
　　町村議会議長全国大会（東京都）

12月

1日　岐阜県町村議会議長会理事会及び評議員会
4日　白川流域連合協議会総会
7日　議会議員協議会
10日　野尻杯剣道大会
14日　町議会第４回定例会（第１日）
15日　予算決算審査常任委員会
　　町議会第４回定例会（第２日）
18日　加茂東部三町村議会議員交流会
20日　子ども議会
25日　可茂地域一部事務組合議会定例会
26日　消防年末特別警戒出発式

1月

5日　消防出初式
7日　二十歳のつどい ～大志式～
8日　白川茶手もみ保存会新年初もみ会
15日　議会議員協議会
16日　長野県原村議会行政視察来町
　　白川・東白川地域公共交通活性化協議会
17日　東濃ヒノキ白川市場初市
　　東濃ひのきと白川の家建築協同組合
　　新年互礼会

表紙は語る

表紙の写真は、
「消防出初式　一斉放水」の様子です。

新年、明けましておめでとうございます。
1月5日、4年ぶりに行われた消防出初式、迫力ある一斉放水が披露されました。団員の皆さんの日頃の訓練に、敬意と感謝を申し上げます。
今年もよろしくお願い申し上げます。

白川町議会定例会の様子が、You-Tube（動画配信サイト）でご覧いただけます。

白川町議会事務局　検索
↓
定例会・臨時会
↓
定例会一般質問等記録動画

あとがき

◆明けましておめでとうございます。
新年早々、能登半島地震と羽田空港での航空機事故、辰年は大変な船出となりました。被害にあわれました皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。白川町は、昨年大きな災害は発生しておりませんが、備えあれば憂いなしと言われています。町民・議会・行政が一体となり、防災について訓練等を含め慎重に対処していかなければと再認識しました。
◆国会では、自民党派閥の政治資金パーティーを巡り、国会議員が逮捕される事態となっています。政治資金規正法の抜本的な改正を行うなど、政治資金の透明化を図る方策が急がれます。「政治とカネ」については、国民が厳しく注視していかなければと思います。
◆人口が減少し高齢化する中、庁舎（役場）の建設、学校の統合など物価高で厳しい財政を背景に、町民の皆さんのご意見要望をお聞きしながら、計画を着実に進行していくため、議会は、庁舎建設特別委員会・総務常任委員会などで議論し、行政と協議しています。それを反映する三月の定例議会で、新年度（令和六年度）予算案を審議します。町民の皆さん、CCNet等でご注視ください。

今井昌平

発行　白川町議会　編集　議会広報編集委員会　所在地　岐阜県加茂郡白川町河岐715番地　☎0574-72-1311　印刷　㈲シラカワ印刷